

<株式会社エフエム東京 第378回放送番組審議会>

1. 開催年月日:平成23年5月10日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社10階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数7名(社外7名 社内0名)

◇出席委員(6名)

青池 慎一 委員長	横森 美奈子 副委員長
渡辺 貞夫 委員	内館 牧子 委員
香山 リカ 委員	西田 善太 委員

◇欠席委員(1名)

秋元 康 委員

◇社側出席者(8名)

富木田 代表取締役社長
唐島 常務取締役
黒坂 常務取締役
石井 常務取締役
小谷 常勤監査役
小林 編成制作局長
延江 編成制作局局次長 兼 番組制作部長
森田 編成制作局局次長 兼
編成制作局編成部長

◇社側欠席者(0名)

【事務担当 小林放送番組審議会事務局長】

4. 議題:

番組試聴「ホリデースペシャル LOVE&HOPE ～ヒューマンケア・プロジェクト」
(ダイジェスト版)

2011年4月29日(祝・金) 11:30～12:55 放送分
(試聴時間:約20分)

議題2:番組試聴

【番組名】「ホリデースペシャル Love&Hope ～ヒューマンケア・プロジェクト」
(ダイジェスト版)

【放送日時】2011年4月29日(祝・金) 11:30～12:55 放送分

【番組概要】

ヒューマンコンシャスの理念に基づき、東日本大震災で被災された方々の心と身体のケアを行う活動「ヒューマンケア・プロジェクト」を4月より立ち上げました。このプロジェクトの拠点番組として、レギュラープログラム「Love&Hope」を編成(月～木 17:30～17:40)、同活動の報告や専門家による震災後の心と身体のケアなど、具体的なアドバイスを行っています。

大震災について、手探りながらも、被災地のコミュニティFMと連携し、情報を入手しながら、医師を帯同しての東北地区への被災地訪問、子供の心理ケア、低体温症の対処の仕方など、あるいは、弁護士を招いて、被災者再建支援法を紹介しながら今後問題となる液状化などへの適応例など、日々ひとつずつ、課題を提示し、リスナーと一緒にその課題を考える番組作りをして参りました。

この「Love&Hope」の特別番組を、大震災から50日経った連休初日の祝日に編成しました。

4月中旬に行った仙台避難所での活動として、ニューヨーク州医師の資格を持つ感染症の専門家、齋藤真嗣氏とメディカルトレーナーのジェフ・ライベングッド氏によるレポート、現地ボランティアによる最新情報、また、公演中止にもかかわらず、ギターを持ち、個人として緊急来日したフランスのアーティスト、クレモンティーヌと実施した、日々余震に怯える子どもたちを前にしての保育園ライブや埼玉県での避難所慰問ライブの様子などを、当日は、子どもたちの心のケアに関する専門家、小巻亜矢氏の解説を交えながら、今後の企画として実施する紙芝居の癒しの効果などを伝えました。なお、当日の特番のうち、東北地区の6つのFM局にもネット致しました。その一部も含めてダイジェストでご試聴いただきます。

＜試聴時間:約18分＞

出演者略歴

齋藤真嗣:米国医師免許(ECFMG)取得、ニューヨーク州医師。専門は腫瘍内科(Medical

Oncology)、感染症(Infectious Disease)。日・米・欧州でアンチエイジング認定医の資格を持ち、日米を行き来しながら、エイジング・マネジメントの普及に努めている。

ジェフリー・C・ライベングッド:米国ペンシルベニア州に生まれる。現在、筋肉や骨を正しい配列に導くテクニックを持つ、世界のトップトレーナーとして活躍する。アメリカ空軍横田基地に配属され、来日。1989年に退役後、トレーニングビジネスを展開。脳解剖学をはじめ、身体機能障害治療法、栄養学、体力とコンディショニングなどの研究に励み、あらゆる資格を取得。

小巻亜矢:NPO法人ハロードリーム実行委員会代表理事、東京大学大学院教育学研究科修士課程。サンリオ入社後に結婚退社、出産を経て仕事復帰。事業の立ち上げを行う中で様々な女性の内面の悩みを知り、女性の幸せを内外からサポートするためのコーチングを学ぶ。現在は自らの経験を活かした子育て支援や女性のマイスタイル確立のためのセミナー、講演を中心に活動中。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○どういふことをしたいのかは伝わってきたが、ラジオの難しさを感じた。ここに出てこられた方は当事者、避難所に常駐する支援者、被災地と離れた避難所やスタジオ、東京にいる専門家や解説者など、階層が違ふ。関わり方も違えば、立場や支援の方法も違ふ方たちが均質に次々に出てくる。被災地に行った人なのか、専門家として一般的に述べてるのが分らなかつたし、一緒に詰め込まれているのでパッチワーク的な感じがした。もっと焦点を絞ってけばいいのではないか。パーソナリティの女性の方が違ふ立場の方々をつなぐテクニックで、強弱をつけたり、紹介の仕方に工夫をすれば解決したのではないかと思う。このような番組の性質上、淡々と誠実な口調で話すしかないのは分るが、そういう工夫をしてくれれば、こちらも考えながら聴けたのではないかと感じた。

○アナウンサーのしゃべり方がよどみなく、その分先が読める瞬間があつた。後の展開が分かるしゃべりはつまらない。もっと感情を出せばいいのにとと思う。私の周りでも現地に行った人や東北出身者がいたが、彼らは現地に入って見た「人の営み」について伝えてくれた。たとえば、スタイリストが現地に服を運んだときに避難所のおじさんたちはVネックを欲しがつたという話。僕らが解釈すると、今はなんでもいいから服が欲しいという状況ではなく、Vネックが欲しいという趣味が出てきたんだということが分かつた。現地の人にアドバイスするのではなく、聴いている僕らにきっかけを与えるヒントを出してほしい。アナウンサーの気持ちを出してほしい。「勇気をもらいました」という言い方をまだやってる。勇気はもらうものではなく、沸いてくるもの。ジェフさんのマッサージはすごくよい。医者よりいいと思う。被災者の方々の状況として、次の段階は手を動かしたいと聞いている。人間には手を動かすことで感

じる喜びがある。「働く」ということに関して徐々に番組が何か伝えてあげられたらいいのでは。今、雑誌が売れている。固定化された娯楽や、メディアに焼き付けられた面白さに少し回帰してきている傾向がある。ツイッターにおける文化人の右往左往振りはずごい。彼らが不安をあおる状況がある中で、固定化され安心できる娯楽にもう一度戻っていく傾向がある。

○おもしろくなかった。全部聴いていけば面白いのかもしれないが、アナウンサーが一回でも現地に行けば、報道されていることとぜんぜん違うことを見たり感じたりすることが多いはず。私が福島に行って一番ショックだったのは花が溢れていたこと。チューリップ、パンジー、こぶし、山桜などすごかった。天も地も美しいが人だけがない。瓦礫があれば住めないのは分かるが、これだけいつもと変わらないのに人が住めない。アナウンサーにももうちょっと感じたことを話してほしい。「子どもの笑顔が力をくれる」、「必ず太陽は昇る」など愚にもつかないことを言っても、誰かが力をもらったり元気を出すことがあるのだろうか。非常時の時は鬱陶しいだけだ。読み聞かせをずっと放送するとか、園児の歌だけで構成した方がよかった。

○趣旨はいい。こういう番組は一時的ではなく人々が立ち直るために継続的にやってもらいたい。みんな現場に入ってるわけで、そこで放送されなかった部分の方がよかったのではないかと思う。現場ではジンとくるところがもっといっぱいあったのでは。「取材に行った」ということではなく、現場に行った模様を自然に録ってくれた方が感じることはあるのでは。番組自体はぜひ続けてほしい。

○他の先生方がおっしゃっていることと重複するのだが、放送を聴いて残念に感じた。内容的に新しい情報がない。たとえば日常生活についての話や、内館先生がおっしゃったように「花はすごく咲いているけど人が住めない」というコントラストや、被災者が何かやりたがっているということ。私自身が聞いた話でも、被災した人たちは被災地にいながらも動きたがっているらしい。自分たちでできることを探したいという部分を救い上げて行ってほしい。そういう意味でもうちょっとやりようがなかったかと思ひ、残念だ。

○放送の基本的スタンスとして、月曜から木曜に放送している10分間の枠は現地の方々に情報を提供するということであると思うが、「ホリデースペシャル Love & Hope ～ヒューマンケア・プロジェクト」のコンセプトはどうだったのか。スペシャル番組は現地の方々に情報を与える番組だったのか、被災者についての情報を全国に届ける番組だったのか。どちらかにはっきりしてくれるとよかった。番組をよく聴くとそうではないのかもしれないが。

○局のアナウンサーが個人的見解を言ってはいけないとか、セーブしなくてはいけないとか、そういうことがあるのか。

■そのような事はない。しかしこの番組については難しい問題があり、前日まで被災地とどのような情報をやり取りするか悩んだ。それで内容が丸くなってしまった。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

① 放 送:番組「JOGLIS SUNDAY」

5月29日(日) 6:00～7:30 放送

② 書 面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会6月7日(火)に開催することを決めた。

以 上